

1. 全体評価

(1) 全体指標の達成状況

目標	メニュー	全体指標	現状値			目標値			目標年度の報告			備考
			数値	単位	年度	数値	単位	年度	実績	達成率 (%)	年度	
森林整備の推進	高性能林業機械等の整備	間伐材利用量	118,000	m3	H29	130,000	m3	R4	131,220	100.9%	R4	広島県業務資料 R5.3.31
		間伐材の生産性	5.7	m ³ /人・日	H29	6.2	m ³ /人・日	R4	7.1	114.5%	R4	広島県業務資料 R5.3.31

(注)

- 1 全体指標、現状値、目標値、単位については、事業計画の内容とすること。
- 2 達成率は、目標年度の実績／目標値とすること。
- 3 実績については、その調査方法と調査年月日を備考欄に記載すること。(別様可)
- 4 報告年度については、本要領第7の1に基づくこと。
- 5 行については、適宜加除すること。

(2) 総合評価

計画主体の評価及び今後の課題とその解決策

目標	本事業により実施した目標の分析とその評価	今後の課題とその解決策
森林整備の推進	高性能林業機械の導入や路網整備の支援、低コスト施業技術の普及等への取り組みにより、林業経営体の生産性が向上したことで、目標を達成した。	今後も継続的に事業実施主体に森林経営計画の作成を促し、持続的に素材生産を行っていく必要がある。また、林業経営体の木材生産性の向上を図るため、必要に応じて林業事業体への高性能林業機械の導入支援を行っていくように努める。

(注)

- 1 目標ごとに事業評価を分析したうえでその評価について記述するとともに、事業実施上明らかとなった今後の課題とその解決策を記述すること。
- 2 報告年度については、本要領第7の1に基づくこと。
- 3 本表には、目標ごとに評価等を記入すること。
- 4 行については、適宜加除すること。

(3) 個別事業の評価及び今後の課題とその解決策

目標	メニュー	事業種目	事業実施主体	施設等 区 分	設置年度 及び目標年度	個別事業により実施した 目標の分析とその評価	今後の課題とその解決策
森林整備の 推進	高性能林業 機械等の整備	林業機械作 業システム整備 【森林整備 型】	西城町森林 組合	林業機械導 入 【森林整備 型】 高性能林業 機械等 フェラーバン チャ	設置年度 平成29年度 目標年度 令和4年度	令和3年度までは目標を上回る実績で推移していたが、令和4年度は隣県の大規模合板工場火災のよる受入制限の影響から、特にスギの生産量が抑制されたため、目標を下回った。	現在も合板工場の受入制限は続いているため、需要に応じて伐採する樹種を切替えるとともに、新たな販売先等の確保を行うことにより、引き続き目標達成に向けて取り組みを進める。

(注)

- 事業実施主体が導入した施設等区分ごとの目標年度における評価等を記入すること。但し、(1)施設の利用状況における実績(達成率)が実施要領第9の1に定める低調である場合においても作成すること。
- 「設置年度及び目標年度」欄は、上段に設置年度、下段に目標年度を記入すること。

様式6の2

費用対効果分析結果報告書

1 都道府県名 広島県

2 実施地域名

3 事業実施年度 平成 29 年度

4 費用対効果分析結果総括表

事業区分	事業種目	市町村	事業実施主体	施設名 (路線名)	効果計測項目	投資効率
高性能林業機械等の整備	林業機械作業システム整備【森林整備型】	庄原市	西城町森林組合	フェラーバンチャ	生産性向上効果 経費節減効果	3.07

5 費用対効果分析結果個別表(作業道等関連施設等)

路線名	分析対象期間		年
事業年度	29 年度	総事業費	16,848 千円
開設延長	m	利用区域面積	ha

効果項目		効果額 (千円)	備考
区分	項目		
フェラーバンチャ	生産向上効果 経費節減効果	49,918 1,837	94,923m ³
効果額計	B	51,755 千円	
費用計	C	16,848 千円	うち維持管理費 千円
投資効率	B/C	3.07 千円	
マイナス効果の概要			
上記施設整備に係る森林伐採面積(作業道敷等)			ha
伐採材積			m ³ /ha
年成長量			m ³ /ha

- (注) 1 効果額は、現在価値(割引後)を記入する。
 2 備考欄には、評価期間に係る伐採量等を記入する。
 3 算定根拠となる参考資料を添付すること。
 4 費用対効果分析を行った単位施設ごとに作成すること。

1. 事業構想評価

(1) 事業構想「目標を定量化する指標」の達成状況

目 標	メニュー		指 標	開始 年度	目 標 年度	達成状況															備 考
						1 年 目 (開始年度)			2 年 目			3 年 目			4 年 目			5 年 目			
						目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	
安定供給 体制の整 備推進	間伐材生産		間伐材生産経費(円／㎡) の減少率	H30	R5	-	-	-	1	-16.4	-1640%	3	-	-	4	-39.1	-978%	-			
	高性能林業機械等の整備		労働生産性(㎡／人・日)の 増加率	H30		11	12.1	110%	12	12.3	103%	13	11.7	90%	14	30.2	216%	15			
木材利用 及び木材 産業体制 等の整備 推進	木材加工流通施設等の整備		地域材利用量(㎡)の増加 率	R3		11	13.9	126%	14												
	木造公共建築物等の整備	木造化(補助率1/2以内)	事業費当たりの木材利用量 (㎡／百万円)																		
		木造化(補助率15%以内)																			
		木質化																			
	木質バイオマス利用促進施設の整備	未利用間伐材等活用機材整備	事業費当たりの木質バイオ マス利用量(㎡／百万円)																		
		木質バイオマス供給施設整備																			
		木質バイオマスエネルギー利用 施設整備																			

(注)

- 1 「達成状況」には、各年の目標値、実績値及び達成率(各年度の実績値/各年度の目標値)を記載すること。
- 2 報告年度については、要領第6の1に基づくこと。
- 3 各メニューの達成状況における、目標年度の目標値には下線を引くこと。
- 4 目標値及び実績値のうち、該当がない年度は、「-」を記入すること。
- 5 天災又は自己の責に帰さない事由による火災等が理由で、達成率が著しく低いと判断されるメニューについては、本報告における評価対象外とする。
なお、該当するメニューについては、本報告に準じ別途達成状況表を作成することとし、その理由を記載すること。

2. 全体評価

(1) 全体指標の達成状況

目標	メニュー	全体指標	現状値			目標値			目標年度の報告			備考
			数値	単位	年度	数値	単位	年度	実績	達成率 (%)	年度	
森林資源の保護	森林資源保護の推進	モデル事業実施地区数	2	地区	R3	2	地区	R4	2	100%	R4	広島県業務資料 R5.3.31
		研修参加人数	31	人	R3	40	人	R4	34	85%	R4	広島県業務資料 R5.3.31
マーケティング力ある林業担い手の育成	労働安全の確保	素材生産量	306,908	m ³	R3	350,000	m ³	R4	350,500	100%	R4	広島県業務資料 R.5.3.1
		労働災害発生件数	36	件	R3	34 (5.6%)	件	R4	47 (-30.6%)	72% (-546%)	R4	林災防協会公表資料 R4.3.31

(注)

- 1 全体指標、現状値、目標値、単位については、事業計画の内容とすること。
- 2 達成率は、目標年度の実績／目標値とすること。
- 3 実績については、その調査方法と調査年月日を備考欄に記載すること。(別様可)
- 4 報告年度については、要領第6の2に基づくこと。
- 5 行については、適宜加除すること。

(2) 総合評価

計画主体の評価及び今後の課題とその解決策

目標	本事業により実施した目標の分析とその評価	今後の課題とその解決策
森林資源の保護	モデル事業の実施については、地元森林組合等と連携し、2地区でシカの捕獲試験等の事業を実施した。また、調査・試験結果を基に被害防止技術マニュアルを作成した。 研修会については、新型コロナウイルスの影響により、研修参加人数は目標を下回ったが、目標の85%の人数が参加し、林業被害対策に関する知識やシカの捕獲技術を習得することができた。	今後は作成した被害防止技術マニュアルの普及や、シカ対策に関する人材の育成などに取り組む。
マーケティング力ある林業担い手の育成	本事業において、安全巡回指導の対象となるのは林業・木材製造業労働災害防止協会の会員である事業体である。令和4年度ではそのうち20事業体に対し、労働安全衛生管理体制や木材伐出作業の指導を行っている。 しかし、県内すべての事業体を回れていないため、巡回指導を行っていない事業体においては依然労働災害が発生しやすい現状にある。	安全巡回指導を行い、雇用者や作業員の安全意識を高め、労働災害発生の低下に努めていく。 また、林業・木材製造業労働災害防止協会の会員数を増加させられるように事業体に呼びかける。

(注)

- 1 目標ごとに事業評価を分析したうえでその評価について記載するとともに、事業実施上明らかとなった今後の課題とその解決策を記載すること。
- 2 報告年度については、要領第6の2に基づくこと。
- 3 本表には、目標ごとに評価等を記載すること。
- 4 行については、適宜加除すること。

別様

目標	メニュー	事業種目	事業実施主体	施設等 区 分	設置年度 及び目標年度	低調となった要因	目標達成に向けた取組
安定供給体制の整備推進	高性能林業機械等の整備	林業機械作業システム整備	安芸北森林組合	ハーベスタ フォワーダ	平成30年度 令和5年度	<p>1 4年目(R4年度)素材生産量・生産性 (1) 目標値 11,000m³ 6.0m³/人日 (2) 実績値 7,852m³ 6.0m³/人日 (3) 達成率 71.4% 100%</p> <p>2 低調となった要因 H30年度時点では作業班2班とも人員は定員どおりであり、保育班で経験を積んだ職員を林産に回す事で1班増班を計画していた。 その後、(作業員、職員に)自己都合退職者が相次いだ事により、間伐現地の新規開拓及び増班が難しくなり生産量が低調になっている。</p>	<p>人工林の皆伐を進めて行くと同時に各種請負事業(林産)の受注を増やし、安芸北森林組合が実行する木材生産量を増やして行く。 具体的に、次年度に皆伐現地3か所を計画する事で増産を目指しているが、今年度についても今から皆伐含め可能な限り増産について検討する。 また、次年度の県営林の発注予定地について、入札に臨む計画をしている。</p>